

第2学年 道徳科学習指導案

令和4年10月20日（木）第5校時

- 1 主題名 多くの人々の支えに気づき、感謝の心をもつ 内容項目【B 思いやり、感謝】
- 2 ねらい 多面的・多角的に考える話し合い活動を通して、多くの人々の思いやりや支えがあるから、日々の生活や現在の自分があるということに気づき、感謝の心を大切にしようとする態度を育てる。

教材名 「ピースサイン」（出典：彩の国の道徳「自分をみつめて」埼玉県教育委員会）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、中学校学習指導要領の内容項目B「主として人との関わりに関すること」の〔思いやり、感謝〕、「思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること」に関するものである。小学校高学年では、相手の立場に立ち、人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え、全ての人に思いやりをもつことの大切さについて考えてきた。感謝に関しては、見えないところで支えてくれる人々まで視野を広げ、その善意に気づき、尊重することについて学んできている。中学校の段階では、相手の立場や気持ちに対する配慮、感謝の対象の広がりについても理解を深めていくことが大切である。

生徒は、日々の生活の中で様々な人々に支えられているということは分かっているが、感謝の気持ちを言葉で表したり、行動に表したりすることは多くはない。特に、中学生のこの時期は自分のことで精一杯になり、周りが見えなくなり、人にあたってしまったり、思うようにいかないことに、ひどくイライラしてしまったりするような発達段階でもある。そんな時に、自分の行動を振り返り、相手の状況をよく考えること、相手の気持ちに気づくことで、その後の行動が変わってくることに気付かせたい。また、多くの人々の善意や支えによって日々の生活や現在の自分があるということに感謝し、それに応えようと行動できるようになってほしいと願い、本題材を設定した。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

本校の学校教育目標は「自主実行」～自ら学び進んで実行～であり、①自らの課題を持ち、進んで学ぶ生徒②豊かな心を持ち、責任を果たす生徒③心身ともに健康な生徒の育成を目指している。また、「ありがとうがいっぱいの学校」を目指し教育活動を行っている。

優しく穏やかな生徒が多く、仲良く学校生活を送ることができている。新人戦、合唱祭と1年

間の中でも大きな行事を終え、学級の絆もさらに深まってきた。また、学年や学校のリーダーとして活躍する生徒も出てきている。リーダーを支える立場の生徒も主体的に動き、リーダーとフォロワーがお互いに支え合うよい関係ができてきている。

そして、3学期の最初にはスキー教室が予定されており、今後さらにやりたいことが増え、自主性が生まれてくる時期でもある。そんな中で忘れてしまいがちなのが日々の当たり前のありがたさである。生徒たちは、自分の生活が多く支えによって成り立っていることを理解しているものの、やってもらうことが当たり前になってしまい、感謝の心をもって受け止めることができていない。一部の人が気を利かせて動いてくれたことに気付いていなかったり、やってもらって当然のように行動したりする様子も時々見受けられる。新人戦で目標に向かって全力を尽くすことができたこと、合唱祭を文化会館で実施し、クラスや学年で1つの歌をつくりあげることができたこと、日々の生活を仲良く楽しく過ごすことができること、それは多くの人々の善意や支えがあるからできることである。このようなことに気づき、支えてくれる人々の思いを知り、感謝の心をもって行動していく態度を育てていきたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

下級生の誠也とペアを組むことになった、主人公の慎祐。同級生とペアを組むとばかり考えていたため、ショックと大会に向けての焦りから怒りを誠也にぶつけてしまう。同級生に愚痴をこぼすが、慎祐に対する誠也の気持ちを知ること、慎祐の気持ちが変わっていくという話である。

本時では、慎祐の気持ちに自我関与させながら話合いをし、相手への感謝の気持ちに気付いてから、どのように慎祐が行動したのか、その行動の背景にある慎祐の心情は何かを考えさせ、ねらいに迫っていきたい。

本学級の生徒の実態を踏まえ、主に次の場面を基に話し合うこととする。

① ペアが先生から発表された場面

自分の思いや考えを優先してしまう主人公に共感させることを通して、人間の弱さについての理解を深め、自分と関わらせながら考えることができるようにする。

② 航平の話を聞いた場面

主人公が友達の話聞いて、後輩が自分のことを思ってくれていることに気づき始める場面を通して、人の気持ちの変化は、周囲の人の支えや思いに気付くことから始まることに気付かせる。

③ 「誠也、ごめんな」と言った場面

主人公が相手の思いを知り、行動が変わっていく場面を通して、周りの人の思いやりや、支えに気付くことで感謝の思いが生まれ、行動が変わるということに気付かせたい。

以上のことを踏まえ、「思いやり、感謝」についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える活動を通して、自己の生き方についての考えを深めたいと考え、本主題を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動 ・主な発問	予想される生徒の発言	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 教材への関心を高める。 「思いやり」や「感謝」の心をもつことに関して、現在の自分の心の状態を確認する。		・ねらいとする道徳的価値への方向付けをし、問題意識をもたせるようにする。
展開	<p>2 本時の課題を確認する。</p> <p>3 教材の読み聞かせを聞き、話し合う。</p> <p>○ペアが発表されたときの慎祐はどんなことを考えたのだろう。</p> <p>○航平の話聞いたとき、慎祐はどんなことを考えたのだろう。</p> <p>(補助発問)</p> <p>○誠也は、なぜこのような考え方ができるのだろう。</p>	<p>思いやりや感謝の心はどのようにうまれるのだろう。</p> <p>【登場人物】 慎祐 (主人公)・誠也・航平 【条件・状況】 次の大会で下級生の誠也とペアを組むことになり、慎祐はショックを受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気になった部分に線を引きながら聞く。 ・ 主體的に話し合うことができるように、気になった部分に線を引かせる。 ・ 相手を尊重し、大切にすることをせずに、自分のことしか考えていない主人公に共感させ、人間の弱さの部分を共有する。 ・ 主人公が相手の気持ちに気づきはじめてことに注目させる。 ・ 素直に感謝の気持ちを表すことができる誠也の生き方から学べることはないか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ なんで誠也なんだ。 ・ 航平となら優勝できるのに。 ・ 誠也も頑張っているんだ。 ・ 感謝の気持ちをもってくれていたなんて知らなかった。 ・ いつも人を大切にしようと思っているのではないか。 	

<p>展開</p>	<p>○「誠也、ごめんな。」と言った慎祐はどんなことを考えていたのだろう。</p> <p>(補助発問)</p> <p>○どうして慎祐はこんなにも気持ちが変わったのだろう。</p> <p>○16年後の慎祐は、周りの人とどのように接し、どんな人生を送っていると思うか。</p> <p>○思いやりや感謝の心はどのように生まれるのだろう。</p> <p>4 今日の学習を通して、学んだことを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誠也の頑張りに気付かなくてごめん。誠也のこと頼りにするからな。 ・ オレが誠也にささえられていたんだな。ありがとう。これからもよろしくね。 ・ 自分のことを思ってくれていることに気付いたから。 ・ 人の思いを大切にすする幸せな人生。 ・ 様々な人の優しさや思いやりに関付き、感謝の心をもって行動できる人生。 ・ 周りの人の優しさに気付き、その人のために行動しようと思ったとき。 ・ 相手のことを大切にしようと思う気持ちでいるとき。 ・ 人を大切にして相手を思いやっていたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の気持ちに気付こうとし、思いやりや感謝の心をもって相手に接することの大切さについて考えられるようにする。 ・ 気持ちの変化の理由を問うことで、道徳的価値に迫れるようにする。 ・ 相手から受けたあたたかい心を嬉しく思い、人との関わり方について考えたことに気付けるようにする。 ・ 誠也との出会いで、人との関わり方に変化があったであろうと投げかけ、人との関わりに関してどんなことを大切に生きてきたのか想像させる。 ・ なぜ、それを大切にしてきたのかについて理由を考えられるようにする。 ・ グループで考えることで、様々な視点から考えられるようにする。 ☆思いやりや感謝の心について他の生徒の発言を聞きながら、多角的・多面的に考えている。 ☆これまでの体験を振り返り、自分を支えてくれていた人々に気付き、感謝の言葉を書く
-----------	---	--	--

		・感謝の気持ちを伝えるのは難しいけど、伝わるようにすることも大事なんだな。	など、自分との関わりで深く考えている。
終末	4 詩の読み聞かせを聞く。	相田みつおさんの詩 花を支える枝 枝を支える幹 幹を支える根 根はみえねんだなあ	・詩を自分との関わりで考えさせ、周りの人々の支えにより、日々の生活を楽しく過ごしたり、自分が活躍したりできるのだということを実感させ、余韻をもって終わらせる。

5 他の教育活動との関連

事前指導	「新人戦」や「合唱祭」では、チームやクラスで互いに支え合うことを大切にしようとする気持ちを育む。
道徳科	教材名「ピースサイン」(本時)
事後指導	学校行事である「生徒会役員選挙」や「スキー教室」等を通して、様々な人が関わり、互いに支え合って行事が成り立っているということに気づき、感謝する気持ちを育む。
家庭との連携	学級通信で思いやりや感謝の心について、学習したことを紹介する。

6 評価の観点

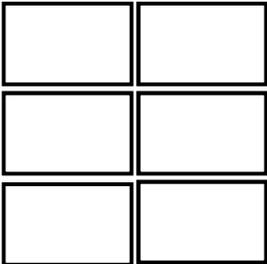
【物事を多角的・多面的に考えている様子】

思いやりや感謝の心について、他の生徒の発言を聞きながら、多面的・多角的に考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

これまでの体験を振り返り、自分との関わりで深く考えている。

7 板書計画

	<p style="text-align: right;">「ピースサイン」 主人公 慎祐</p> <p style="text-align: right;">思いやりの心は どのよう<u>に</u>うまれるのだろう。</p> <p style="text-align: right;">①ヘア発表 なんで誠也なんだ。 航平となら優勝なのに。</p> <p style="text-align: right;">②航平の話 誠也も頑張っているんだ。 何も知らなかった。</p> <p style="text-align: right;">③「誠也、ごめん」 オレが誠也に支えられていたんだな。 誠也の頑張りに気づかなくてごめん。 誠也のこと頼りにするからな。</p> <p style="text-align: right;">16年後慎祐は どんな人生を送っているだろう</p>
---	--